

”十鉄“は

いつまでも心の中に

十和田観光電鉄鉄道 89年の歴史に幕

3月31日、十和田観光電鉄鉄道線七百駅で鉄道終了式が行われ、地元住民や関係者らが慣れ親しんできた「十鉄」鉄道との別れを惜しまれました。

式典では、始めに白石鉄右工門十和田観光電鉄株式会社取締役社長が「七百地区は（存続へ）何とかならないかという思いを一番感じた地区。七百地区の思いを忘れることなく精進していきたい」とあいさつ。続いて吉田豊町長が「終わるといふことは寂しいという気持ちはあるが、今は『ありがとう』ございました。そして、『お疲れさまでした』と言いたい」と、感謝



▶「十和田観光電鉄に関する町民懇談会」には、七百地区などの沿線に住む人たちが参加。参加者からは存続への強い想いが語られた
[七百地区公民館 昨年9月15日]



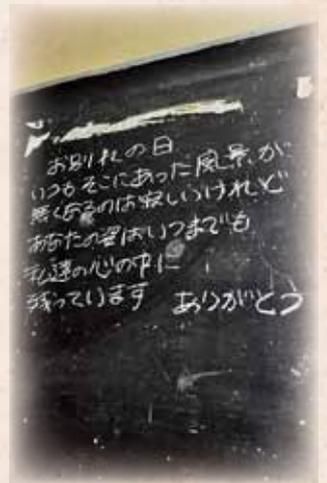
▲運行終了まで残りわずか。沿線住民だけでなく、県内外から鉄道ファンが訪れた
[古里駅前 3月29日]

▶七百駅で行われた鉄道終了式。七百老人クラブ康楽会が感謝の横断幕を掲げ、集まった地元住民約80人は十鉄の運行終了を惜しんだ
[七百駅車庫 3月31日]



の言葉を述べました。式典後、七百駅ホームでは、七百老人クラブ康楽会（坂本定市会長）の会員らによって横断幕が掲げられ、集まった地元住民らが満員の乗客を乗せた十和田行き最終日特別便電車を見送りました。

十鉄レールファンクラブの斉藤正会長（七百）は「今日で鉄道運行は終わるけれど、これからはこの七百駅の施設や設備を何らかの形で後世に残せるよう尽力していきたい」と、新たな取り組みへ意欲を語っていました。



▲運行最後の日。七百駅舎の黒板に書かれていたメッセージ

わが家のたから



— 川原新田 —

鳥越 蓮 くん (6ヶ月)

父 正幸さん 母 美幸さん

蓮くん、笑顔と幸せをありがとう!

(パパ・ママ&じい・ばあより)

これからもいっぱい笑って大きく育ってね!

‘十鉄’ Memory



下田 博男 さん
【七百町内会長】

「十鉄は、中学生の頃から乗り、三本木農業高校へも通学で利用していた。自分にとっても地域にとっても大事な存在。なんとか存続させたかったのだが…。残念の極みです」



斉藤 正 さん
【十鉄レールファンクラブ会長】

「もの心ついた時から、父と一緒に乗った記憶がある。通勤や通学で使っていたし、自分にとってなくてはならない存在だった」



古里かし さん (古里)

「『さびしい』の一言。廃線になるなら、車に乗らずもっと利用すればよかった。小さい頃に友だちが間違っって無銭乗車して三沢まで行ってしまい皆で大笑いした話を良く覚えている」

「毎朝七百の踏切の音が家まで聞こえてきて、朝7時を知らせてくれていた。電車はおばあちゃんと買い物とか遊びに行く時によく乗っていた」



藤田 捺芽 さん、早紀 ちゃん (七百)